

介護問題ホットライン無事終了 多彩な人々が力あわせて



介護問題ホットラインが無事終了しました。九月二十九日、三十日、十月一日の三日間、最終日は国際高齢者デーでした。中心を担った「高齢社会をよくする女性の会・大阪」の関係者などは二〇一〇年から十二年ま

で、ホットラインに取りくんだ経験があり、五年ぶりの企画だそうです。

初めて労働組合も参加

今回は、私たちのような労働組合関係も実行委員会に加わり、また賛同者として様々な個人・団体が名を連ねました。長年、介護や福祉問題に関わってこられた老舗の団体の関係者の皆さん、女性労働者への差別問題や労働条件改善に取りくんできたグループ、介護の専門職、介護労働者を組織しているユニオン、社会人大学で学び研究を重ねてきた方々、大阪社会保障推進協議会、社会保

険労務士、近畿各地の自治体の女性議員など等、多彩な顔ぶれが集まり、互いに協力して一つの事業をやり遂げることが最大の成果だと言えるかもしれません。

私たちは、港合同が設立し「みなと合同ケアセンター」を運営する「NPOみなと」として、また介護・医療労働者の職種別労働運動をめざして立ち上げた「安心できる介護を！懇談会」として、微力ですが主催者の一翼を担いました。

南労会支部からは三人が電話相談係や研修担当に参加。初めての経験なので興味深く、今後に活

かせることを色々と学ぶことができました。

濃厚で周到な準備

この事業は、「大阪市ボランティア活動振興基金」福祉課題に取り組む調査研究支援事業」助成事業」として、十萬円の助成金を確保して取りくまれました。事務局を担った経験豊かな皆さんのご尽力のお陰です。それも有り準備と運営は中味が濃く、周到でした。

電話の相談役・サポート役・記録パソコン入力係などのボランティア募集には五〇人超の方が応募、また四回の事前研修会を実施し、毎回二五名

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！

以上の応募者が参加されました。

研修用の教材も手作り、担当者が会議を重ね、六〇ページ近いマニュアルと別冊の資料を作成しました。介護保険制度があまりにも複雑かつ短いパンで改悪をくり返してきたこと、更にこの四月からは、要支援むけ介護サービスの一部が全国で市町村事業に移行され、自治体ごとにバラバラにされてしまったこと等もあり、かなり難しい内容となりました。今後の課題です。

報道機関への取材・報道依頼、チラシやネットでの拡散など宣伝も大分

頑張りました。が、突然の国会解散情勢で直近の報道が少なく残念無念！アベの独裁解散に更に怒りが高まりました。

中高年女性のパワー全開

正確な集約と総括はまだこれからですが、三日間の電話件数は四〇数件、少なかったものの、今回の特徴は日曜日に介護労働者からの相談が多かったこと、「ネットで知った」と、遠隔地く盛岡、佐賀、岐阜、埼玉等から電話があったこと等くだそです。

それにしても、会議、研修、当日と、いずれも男性の姿は珍しく、頼も

しい中高年女性のパワー全開、そのエネルギーと力を見せつけるホットラインという感じでした。

報告集作成にむけて

この企画の総括と仕上げは「報告集」です。実行委員会を

重ね、皆で作らあげていきます。

広く市民の

皆さんに全国からの声を届け、行政への働きかけや各々の今後の活動に活かしていくことが目的です。

関わった皆さま、ご協力頂いた方々、ご苦勞さまで、有難うございました。

